

石内 國雄



## 内水災害対策は万全か

町長 内水被害の大きい地区を優先し、雨水対策工事を行う

**質問** 2年連続で内水災害があった。現在の雨水排水整備工事後の計画は。

**答弁** 町長 計画した雨水対策事業は、平成27年度までの完成を目指している。

**質問** 雨水排水整備工事の1時間当たりの想定雨量は61・6ミリメートル。しかし、ゲリラ豪雨では100ミリメートル、台風12号でもトータル100ミリメートルを超えた。これでは、工事が完成しても町民の財産に被害があり、生活にも支障が出ると思われる。貯水池等も視野に入れた検討など、前から進めている事業で事足りるという考えではなく、現実にかけている災害に対しての積極的な取り組みを求める。

**答弁** 上下水道課長 今後、豪雨等が予想される。雨水全体計画の見直しが必要と思われるため、引き続き検討していく。

**答弁** 町長 十分でないとなれば、考えなくてはならない。次の手も必要か、担当課と検討していきたい。



平成 24 年 5 月 まで に 完 成 予 定 の 蛭 堀 改 修 工 事

**質問** 前に提言した、民間事業者との「災害時協定」の推進状況は。

**答弁** 町長 (株)カインズと生活物資等に関する協定を締結した。また、玉村町建設業組合、玉村町水道組合と締結の準備を進めている。

**質問** 道路からの入口付近の存在表示をすべきと考えるが。

**答弁** 町長 避難所の標識は設置済みだが、所在を示す標識がない保育所と南幼稚園については、関係各所と協議していきたい。

高橋 茂樹



## 災害に強いまちづくりを

町長 地域の特性に応じた避難地や公園緑地を配置する

**質問** 都市計画マスタープランの中で示されている五料地区防災公園の、今後の計画を問う。

**答弁** 町長 防災というキーワードから公園整備を進めていくことは、今後のまちづくりのあり方として大変重要である。地域の特性に応じた避難地や公園緑地を適正に配置したい。



勤労者センターに設置された防災倉庫

**質問** 太陽光発電を導入する考えはあるか。また、そのエネルギーを利用し、小中学校にエアコンを設置する考えはあるか。

**答弁** 町長 太陽光発電等の導入や、特定規模電気事業者(PPS)等からの電気の購入など、電力需要

を再検討する時期にきていると考える。しかし、再生可能エネルギーの導入・設置費用はかなりの経費を要するため、効果的な方法を見きわめてから導入したい。

**答弁** 教育長 エアコンの設置については、電力の供給状況や近隣市町村の動向を見ながら、引き続き検討する。グリーンカーテンなどの暑さ対策も講じていく。

**質問** 高齢者が元気でいれば医療費が抑制できる。高齢者の健康増進への取り組み、町民1人1スポーツ啓発運動への取り組みを問う。

**答弁** 町長 高齢者に対しては、筋力向上トレーニングの活用を推進している。筋トレは、身体機能の維持向上だけでなく認知症の予防や閉じこもり防止などの効果もあり、医療費の減少にも結びつくものと考えている。また、町では、町民を対象に幅広い競技種目の教室・大会等を行っており、引き続きスポーツを通じて町民の健康増進を図る。

## 3期目の町政と平成 24 年度 施政方針を聞く

町長 「人への優しさ」と「協働のまちづくり」を推進していく



筑井あけみ

### 質問

3期目の町政を託され、かじ取りをする立場として、改めて基本的な政治姿勢と信条を伺う。

### 答弁

町長 1期目は、合併をせず自立の道を選び、町政の安定を優先課題とした。2期目は、玉中・第3保育所改築などのハード面と、中学生までの医療費無料化などを進めた。3期目は、「人への優しさ」と「協働のまちづくり」を推進していく。

### 質問

企業誘致の現状と、将来を見据えた土地利用、開発を伺う。

### 答弁

町長 平成23年に、町内企業に対して拡張用地を供給することができた。今後は、独自色を出すことにより、周辺都市と差別化しながら、企業誘致を進めたい。

### 質問

誘致地のイメージを持っているのか。求められているのは定住施策であるが、対応策は。

### 答弁

町長 企業誘致は、行政運営や雇用機会の確保にとって、重要な施策と考える。東部及び北部工業団地地区、利根川北部地区や

スマートIC周辺を主軸に、誘致していきたい。また、教育・福祉・環境・商工業・農業などあらゆる施策との相乗効果で、定住環境が整うものと考えている。

これまでの町の観光に対する取り組みについて伺う。これらの事業を通してどの程度の客数があったのか、その経済効果はどうか。

### 質問

これまでの町の観光に対する取り組みについて伺う。これらの事業を通してどの程度の客数があったのか、その経済効果はどうか。



早春の三大まつり 上福島のすみつけ祭

### 答弁

町長 花火大会や群馬DC等、さまざまな観光事業を実施してきたが、どの程度の客数があったのか、また目に見える経済効果があったのかは、正確な調査をしていない。

## 幸せを実感できるまちづくりとは

町長 子どもたちが住みよい地域が、すべての人に住みよい地域と確信している



川端宏和

### 質問

町長が思い描く将来像と、住民が幸福を実感できる町とは。

### 答弁

町長 東日本大震災をきっかけに、多くの人が改めて自分の幸せについて考えたと思う。一番の幸せは、健康で、食事ができ、体が自由に動かせ、普通の生活ができることだと私は考える。このような住民が多ければ多いほど、町全体が幸せになると考えている。私は常々、子どもたちが住みよい地域は、高齢者や我々にとっても住みよい地域であると確信している。幸せを実感でき、誇りを持てるまちづくりを実現したい。

### 質問

都市計画マスタープランでは、スマートIC周辺を産業構想拠点と位置づけ、周辺地区の土地利用構想を策定するとしている。具体的な策は。

### 答弁

町長 東毛広域幹線道路の未利用地を活用する。スマートIC近接地に道の駅を設置し、その中に農産物直売所を配置することで観光の拠点としたい。また、道路利用者の休憩地やま



(仮称) 高崎・玉村スマートIC周辺地域

ちの情報発信基地として、交流の拠点化を目指す。さらにグラウンドゴルフ場などのスポーツ用地として地元還元し、またこの沿線に桜の植樹をすることで、道路自体の観光・交流の拠点化を図っていく。有事の際には、物資の搬入地・仮設住宅などの利用も含め、防災の拠点化にもしていく予定である。地元などの意向や意見を聞きながら、土地利用構想の考え方をまとめていきたい。